

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,45 2023年 新年号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



特集「発表！ワシ・タカベストイレブン」
とびしまんちゅ流鳥見のススメ④「お試しアレ」
鳴く虫を楽しむ①「カヤキリ」

「ケアシノスリ」12月 山形県庄内町 撮影：とし様

Special Edition

感動をありがとう！W杯日本代表 強豪チーム撃破

発表！ワシ・タカ ベストイレブン！

日本列島が沸いたサッカーワールドカップ・カタール大会。惜しくもベスト8へ進むことはできませんでしたが、強豪国ドイツ、スペインを撃破してのトーナメント進出は私たちに勇気と希望を与えてくれるものでした。代表の偉業をたたえ、ワシ・タカベストイレブンを発表します。

我々、猛禽類の多くは絶滅の危機に瀕していますが、この逆境をはねのけて、生態系の頂点生物として我が国の環境に希望を与えられる存在になりたいと思います。サポーターのみなさん、応援よろしくお祈りします！システムは「4-2-3-1」国内組・海外組も含め個性の光る最強の布陣です。



カムリワシ監督



環境省レッドリスト『絶滅危惧 I A類』小柄ながら「ワシ」と名の付く猛禽類。沖縄県八重山地方にのみ生息する。地域の方言では「アヤパニ」。



(DF) ハチクマ



長距離移動が得意。ハチの針を通さない鉄壁の護り！温和な性格でチームプレーの要。ハチの子が大好き。

(DF) サシバ



小柄ながら豊富な運動量が武器。冬は東南アジアで越冬し、夏に日本に帰ってくる。鳴き声に特徴あり。

(DF) ハヤブサ



代表最速のスピードを誇る！空中戦に強く、スピードを生かした蹴り技で相手を圧倒する。「空中は俺の独壇場だ！」

(DF) ミサゴ



魚食専門のCK(カーブ・キラー)職人。獲物をつかまえたなら離さない、ワシタカ類では唯一の対足の使い手。派手なダイビングヘッドも得意技。

(MF) ノスリ



高所にとまって、フィールドに出てくるモグラなどをつかまえることから、管理者にはありがたい存在。

(MF) チゴハヤブサ



冬はインド方面へ移籍する。えものを空中キャッチして、飛行しながら食べる技巧派。

(MF) トビ



よくカラスたちにもあられるが、適応能力に長ける知能派。インターセプト(横取り)が得意。

(MF) チュウヒ



得意技は「フェイント(不意打ち獵)」。視認性の悪いヨシ原に適應し、音を拾うための顔盤と、長い脚を活かした狩はまさにファンタジスタ。

(MF) イヌワシ



金髪がトレードマーク。走・攻・守の三拍子そろった選手。「我々の課題の多さは伸び代ですねえ！」は猛禽類たちに勇気を与える名言。

(FW) オオタカ



獐猛な性格で大きな相手にも果敢に立ち向かっていくメンタルの強さが持ち味。「オオタカ半端ないって！」

(GK) クマタカ



ゴール(なわばり)を守る守護神、かつ攻撃的ゴールキーパー！幅の広い翼は死角なし！鋭い眼力で相手をひるませる！

2023年3月にはWBC(ワールドベースボールクラシック)、9月にはラグビーワールドカップなど、スポーツイベントが目白押しです。鳥類たちの行動をスポーツになぞらえて観察してみると、面白い発見があるかもしれませんね。

庄内の動物情報コーナー

12月のクリスマス・年末寒波で立往生の発生、日本海側では稀に見る災害発生となりました。一方で少し気温が高いこともあって、当地域の平野部では雨の量が多かった印象です。年末は風化した山肌に降雨によって発生したと考えられる地すべり被害も発生し、大きく報じられました。皆さんのお住いの地域の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2022年「クロスキバホウジャク」鶴岡市
ガの仲間ですが、日中からよく活動して長い口で花の蜜を吸います。透けている翅を動かすと見えなくなるところは、まるで天空の城へ飛んで行く乗り物のようですね。
撮影：毛呂七鳳様



2022/10月「オガワコマドリ」酒田市
のど元を横断している青いラインはまさに「小川」そのもの。いいや！そこに清流四十川を見た！※和名は明治時代の鳥学者小川三紀博士にちなんで名付けられています。
撮影：とし様



2022/10月「ショウドウツバメ」酒田市
北海道では夏鳥、こちら山形では春と秋に見られる旅鳥。見たい衝動に駆られますが、タイミング次第などが難しいですね。
撮影：齋藤修様



2022/10月「クマタカ」鶴岡市
紅葉をバックに飛翔するクマタカ。さすがは森の王者。風格がありますねえ。
撮影：宇佐美様



2022/11月「コミズク」酒田市
岡本太郎作「太陽の塔」ではなく、冬限定で観察できるフクロウの仲間です。意外と首が長かったんですねえ。
撮影：佐々木真一様



2022/12月「カモシカ」遊佐町
人が立ってられないような急峻な斜面からじっとこちらをみつめるカモシカ。雪が無いので食べ物を探しやすいのか？
撮影：渡会様



2022/12月「クイナ」鶴岡市
「鶴は千年」こいつお縁起がいいや！えっ？鶴に見えない？オオバン・バン・クイナでツルに見えない「くいな男子」を結成！9月17日にデビューします！（しません。しかも写真はメス）撮影：とし様



2022/12月「ケアシノスリ」酒田市
際立つ白さと毛深い脚（人間でいう足の甲部）。今シーズン、県内では当たり年となり観察情報多数のケアシノスリです。
撮影：土屋様



2023/1月「ミユビシギ」神奈川県大磯町
元旦の寒空の元、「荒波をのりこえてきました！」感満載のミユビシギ御一行。長距離の渡りをしています。
撮影：こまたん金子様

全国の動物情報コーナー

イベント開催報告

○出張展示「やまがたハイブリッド環境展2022」

10月15日(土)・16日(日)、山形市にある国際交流施設「ビックウイング」にて「やまがたハイブリッド環境展2022」が開催され出展しました。

3年ぶりの現地開催という事で、多くの県民の皆さんからブースに来場いただきました。子供達も楽しく遊んで、猛禽類と環境の関係について学んで頂けたと思います。また今回は新規出展の企業や団体も多く、新しい環境関係者とも交流を持つことができたことは大きな成果だったと感じています。

来場してくれた皆さん、準備いただいた実行委員会のみなさんありがとうございました。



○出張展示「ジャパンバードフェスティバル2022」

11月5日(土)・6日(日)千葉県我孫子市にて、日本最大の野鳥のお祭り「ジャパンバードフェスティバル2022」が開催され出展しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止されていましたが、密回避のため会場を2会場に分け、対策を徹底したうえで今回、3年ぶりの現地開催となり、全国から多くの野鳥愛好者が訪れていました。当センターでは、新しい展示物として「イヌワシ危機一髪」を導入し、多くの子供達からイヌワシを絶滅させる要因を、ゲームを通して学んでいただきました。野鳥を研究している学生さんも見学に来てくれたり、我々スタッフもここ数年では触れ合うことが少なかった、他地域の方々との交流を通して、新しい情報を頂いたり、刺激を受けました。猛禽類保護の普及啓発活動に活かしていきたいと思います。

来場してくれた皆さん、イベントの開催にあたって準備に奔走した実行委員会のみなさんありがとうございました。



○観察会「ハクチョウのねぐら入りを見よう！」

11月19日(土)、「ハクチョウのねぐら入りを見よう！」と題して観察会を開催しました。講師はワイルドライフリサーチ代表の鵜野レイナさんです。

11月下旬にも差し掛かると悪天候の日が多くなるのですが、この日は驚くほどの快晴となり、おだやかな環境で観察をすることができました。参加者は身近な環境にこんなに多くの種類の鳥たちがいたことに驚いていました。

酒田市には毎年秋になると多くのハクチョウたちが飛来しています。鵜野さんのグループは、ハクチョウ・ガン・カモ類の飛来数を、まだ日ものぼらないうちからカウントし、最上川エリアでどれくらいの数が利用しているのかを調査し報告しています。継続すること10年、本当に頭が下がります！

参加してくれた皆さん、講師の鵜野レイナさんありがとうございました。

この日見られた鳥

トビ、ノスリ、カワウ、コガモ、マガモ、カルガモ、オオセグロカモメ、コハクチョウ、オナガガモ、ダイサギ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、アオサギ、ムクドリ、ホシハジロ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラヒワ、ホオジロ、モズ、ウミネコ、ハクセキレイ 計21種



○「西荒瀬保育園渡り鳥観察会」

11月17日(木)、酒田市の西荒瀬保育園の年長組の皆さんと、稲刈りの終わった庄内平野の水田と、最上川スワンプークにて渡り鳥の観察会を行いました。保育園近くの水田では、落穂を食べるハクチョウの群れを観察しました。おいしい庄内米を食べるハクチョウたちの様子を双眼鏡やスコープを覗きながら、じっくりと観察することができました。最上川スワンプークでは、オナガガモなど最上川を代表するカモ達を観察することができました。年長組のみなさんは、上手に双眼鏡を使っていて驚きました。西荒瀬保育園の年長組のみなさん、引率の先生方ありがとうございました。



鳴く虫を楽しむ① 「カヤキリ」

山形県在住の昆虫写真家高嶋清明さんによる鳴く虫のコラムです。我が国では自然を感じとる事で季節を知る二十四節季があります。特に虫の鳴き声は秋「寒蟬鳴」、冬「蟋蟀在戸」などがあり、身近に季節を感じることができるものでした。高嶋さんの解説で風情ある日本の自然環境を再発見しましょう！



カヤキリは、草丈の高いススキやヨシなどの草地にすむ



ススキなど硬い植物をかみ砕く鋭い大アゴ。噛まれるとかなり痛い



「カヤキリの鳴き声」

(QRコードリーダーでスキャンして聞くことができます。無料ですが通信料がかかりますので、従量プランの場合は通信量にお気を付けください。)

カヤキリは、日本で最も大きなキリギリスです。体長は7cm近くあり、鋭いアゴで噛みついてくるので、さわるのも怖いくらいです。暖かい地方では普通種で、東北地方には分布していないことになっていますが、温暖化の影響でしょうか、10年くらい前から山形県内に入ってきています。

カヤキリは鳴き声も大きく、遠く離れた場所から聞こえます。車を走行中でも、道路脇で鳴いていればすぐにわかります。ただし、音色を楽しむような美しい音ではなく、“騒音”です。ぜひQRコードで確かめてみてください。とても高い音なので、人によっては聞こえない場合もあります。初めてカヤキリの声を聞いた時、虫の声とは思いつかず、街灯が故障して音を立てていると思いました。ライトを当てたら、大きなキリギリスが翅を震わせて鳴いていたので、本当にびっくりしました。一度聞いたら忘れられない鳴き声です。それからは、姿が見えなくとも、カヤキリがいるのがわかるようになりました。

鳴き声を知っていれば、鳴く虫探しは耳からの情報だけでかなり分かります。これ重要！

今から15年前、2008年の夏のことです。新潟県の、山形県境まであと数十メートルというところに、カヤキリの声を聞きました。念のため、明かりをつけて姿も確認。当時の日本海側の分布最北端の一匹でした。数年後には山形県側に深く生息範囲を拡大し、今も確実に分布を広げています。



高嶋 清明(たかしま きよあき)

昆虫写真家。1969年山形市生まれ。写真家・海野和男氏の助手を経て2008年独立。山形県の庄内地方をメインフィールドに動画や録音にも活動を広げ、ヒトの感覚では捉えられない昆虫の世界を探求中。主な著書:「鳴き声から調べる昆虫図鑑おぼえておきたい75種(文一総合出版)」「鳴く虫の科学(誠文堂新光社)」高嶋清明<http://neptis.xsrv.jp/>

"とびしまんちゅ流"鳥見のススメ



楽しく、そしてより良い鳥見をするための「小さな親切、大きなお世話」な”ひとり言”です(^;Have a nice Birding!

第4回「お試しアレ」



しげ
「時化る海」



「港に入るアビ」

冬は「アレ」が気になるなあ。アレよ、アレ…(^;乾燥してお肌の「荒れ」も気になるところだが、その「荒れ」よりも気象の「荒れ」。わが山形県のような北日本の日本海側では、冬は北西の季節風がものすごく強く、海は度々時化する。おかげでマイ・フィールドの飛鳥は定期船の欠航が長らく続き、16日間連続欠航という不名誉な記録があるほどだ(+)

しかし、この荒れはマイナスなことばかりではない。庄内が暴風警報の荒れになれば、鳥が動く！まずはなんと言っても海鳥だ。普段、ほとんど見ることがない外洋性の鳥は、海が時化ると一時的に港に入ることが知られている。例えば、ウミスズメ類やウミガラス類、アビ類などはその筆頭だろう。

筆者も若い頃は、庄内に暴風波浪警報が出た時には率先して通ったものだ。その甲斐あって、ビロードキンクロやハシブトウミガラス、ウミスズメ、アビ、シロエリオオハムなどに出会えたことがあるし、ウミバトを見た人もいる。県外ではウミオウムやツノメドリが出た話もある。

また、夏から秋なら台風通過も狙い目。ミズナギドリ

類をはじめ、カツオドリ類やネットイチョウ類も夢ではないが、台風は発生場所と勢力やコースなどに左右されるだろう。

ただし、いずれの場合も期待外れのこともしばしばだし、何よりもあまりにも猛烈な風だと、外出そのものが危険だ。珍鳥見たさに危険を省みない行動は慎むべきだ。

一方、私の住む山形県の内陸部でも冬の荒れは鳥が動く。まずは自分が住む地域が大雪で荒れてしまうと一気に鳥が減る(++)これははただけない。でも住んでいる所よりもやや北の地域が荒れると鳥が増える！これはおいしい！\(\o^)/鳥にとって、やはり雪の多い少ないは、餌がとれるかとれないかであり、命に関わる重大なものだ。

この冬、読者の方々もめったに出会えない鳥狙いで程良い「荒れ」の日に挑戦してみてはいかがだろうか？もちろん、あまりの「荒れ」に「あれ〜〜〜！」と飛ばされぬように、そしてお肌の荒れにも充分気をつけて。もちろん、「あれ〜？…何もいない(T_T)」のも覚悟の上で。



築川 堅治 (やながわ けんじ)
日本野鳥の会山形県前支部長。
中学二年生よりバードウォッチングを始め、現在はバードウォッチング・ツアーガイドや鳥類調査などを行っている。ライフワークは「飛鳥」。自称”とびしまんちゅ”春秋の渡りの時期を中心に年間約70日間、飛鳥に滞在し飛鳥の野鳥を調べている。著書「日本の離島の野鳥①飛鳥」(わたりがらす出版)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

火の用心。県内でも年末年始連日火災が発生しました。寒波襲来時も火の取り扱いには十分注意を！(本)

希少種保護増殖等専門員

とある雪が降った日。帰宅すると庭にノウサギの跡が残っていました。またある日は真っ白な冬毛のノウサギが、家近くの林を駆け抜けてゆくのを見ました。「今日は来たかな」と足跡を探すが、最近の帰宅後の小さな楽しみです。(萩)

事務局

ただいま、冬の剥製展示「ワシ・タカベストイレブン」を展示中。サッカーワールドカップにちなみ、鳥たちの行動、性格などからメンバーを選び、より身近に感じてもらえればと思います。なお、休館日はありますが冬期間”絶賛開館中”です。雪深い景色もきれいですよ。(清)

鳥海南麓自然保護官

1月中旬、酒田市街地は雪がほとんどありませんが、イヌワシみらい館周辺は水分の多い雪が積もっています。車道、駐車場、施設回り…毎日除雪をしてくださる皆様に感謝の日々です。(澤)

編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 2月~4月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・2月の火・土・日・祝、3月の火

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

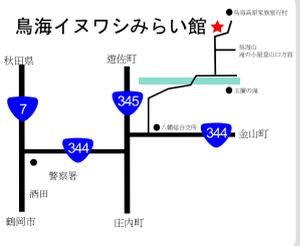
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.45 新年号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)